

研究課題名：①気管支ぜん息患者の長期経過及び変動要因

申請課題名：バイオマーカーを含めたぜん息増悪因子の同定と層別化指導指針の策定-多施設ぜん息コホートの検討から-

調査研究代表者氏名：長瀬 洋之

1.評価軸別の評価

大変優れている(5点) 優れている(4点) 普通(3点) やや劣っている(2点) 劣っている(1点)

	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
(1) 環境保健対策の推進への貢献度	3人	2人	1人	0人	0人	4.3
(2) 研究成果目標の達成度	1人	4人	1人	0人	0人	4.0
(3) 研究計画の妥当性	3人	2人	1人	0人	0人	4.3
(4) 研究内容の独自性	3人	3人	0人	0人	0人	4.5
(5) 社会・経済に対する貢献度	1人	4人	1人	0人	0人	4.0
個別評価平均						4.2

2.総合評価

(1)評価基準に沿った評価	2人	3人	1人	0人	0人	4.2
(2)記述評価						
<p>・「迅速低下」については、背景因子、低下率、small airwayの指標等を検討し提示すべきではないか。つまり結論は急ぐべきではないと考えられる。</p> <p>・経年低下が1秒量が高い群で40ml/年を超えて高いという結論は性急感がある。有意差を示した各種液性因子の機能的な意味づけができることさらに素晴らしい研究として評価されたいと考えられる。抗イヌIgE抗体が2型のphenotypeに見られるという所見についてもさらに検討とその意味づけが必要だと考えられる。</p> <p>・全体および、2型炎症群と非2型炎症群の表現型別の増悪寄与因子が示された。犬飼育、好酸球、アトピー性皮膚炎合併、年齢、バイオマーカーなど。重要な結果である。介入についても考察している。</p> <p>・ぜん息増悪に関する因子が報告されたが、概ね予想される結果であったように思われる。</p> <p>・明確なデザインに基づいて、増悪因子について重要な成果が得られていると評価できる。</p>						